

特集

双日の女性社外役員

双日では、2013年6月の株主総会において社外監査役として瀬古美喜氏を、2014年6月の株主総会において社外取締役として石倉洋子氏を、それぞれ女性役員として初めてご選任いただきました。本特集ではお二人に、「双日の企業価値向上」についてのお考えをお聞きしました。

双日の経営体制

現在、当社の取締役会は7名の取締役で構成されており、そのうち2名は社外取締役です。社外取締役には、内部昇格の社内取締役とは異なるさまざまな経験をもとにした外部の視点をもつて経営に携わり、経営の透明性を高めることや株主重視の経営を促進することが期待され、近年、多くの日本企業が導入を始めています。双日は発足時の2004年から社外取締役を置き、さらに2007年6月からは2名に増員しており、株主の皆さまをはじめとするステークホルダーのご期待にお応えするこ

とができる経営体制を構築しています。また、経営活動を監視・監督する機能を持つ監査役会は、4名の社外監査役を含む5名の監査役で構成されています。社外監査役も社外取締役と同様に外部の視点から助言を行うという役割を担っており、当社では、法律、金融、会計、経済といった多様な分野で高い専門性を持つ社外監査役を置くことで、グローバルにさまざまな分野で事業を展開する総合商社の経営を適切に監視・監督することのできる体制を整えています。

社外取締役からのメッセージ

世界の潮流を捉えて、外部の視点から率直に提言

現在、世界では大きな変化が起っています。そのひとつには、新興国の成長があり、その市場には大きな商機が期待できます。インフラ整備など、商社がそれら地域で果たす役割はますます拡大していくでしょう。また双日は、10周年を迎え変革期にあります。これらの点に可能性を感じたことが、社外取締役をお引き受けした理由です。

商社のビジネスは非常に複雑です。取締役会などでは、私がこれまで積んできたキャリアや経験をもとにして、「対象となる市場・国における双日の競争力は何なのか」、「双日にしかできないことはどのようなことか」などをお聞きするようにしています。また、双日が社内ですべてを進めようとする際に、その意思決定を外部はどのように見るのかを、世界の潮流と照らし合わせて率直に提言しています。

さらなる双日の強みを見つけ出し、発揮することに貢献したい

商社は極めて広範な領域でビジネスを展開していますが、すべての領域で勝ち続けることはできません。今の双日に求められるのは、業界や地域など独自性を追求していくことだと考えています。つまり、絶対的な強みを持つ分野・地域をひとつずつ積み重ね、絶対負けない独自性のある事業の集合体になっていくべきであるということです。また、その独自性を極めるためには、多様な視点が必要であると感じています。商社の特徴として、事業をグローバルに展開していくのですから、組織として、人材も含めて、もっと多くのことを取り入れていくべきです。私は、社外取締役として、また、女性として、多様な視点を双日に取り入れるという役割を感じています。

独自性を持ち多様性を備えた企業、そのポテンシャルが双日にはあります。社外取締役として、さらなる双日の強みを見つけ出し、活かしていくことに少しでも貢献していきたいと考えています。

社外監査役からのメッセージ

企業固有の盲点を指摘するのが社外監査役役割

社外監査役として私に課せられた責務は、第三者の立場から不当や不正がないかどうかを監視する牽制機能を果たすことだと考えています。私は、これまで実業界とは異なる経済学という学問の世界に身を置いてきましたので、その専門性を活かしながら、率直に意見を申し上げます。

特に、企業では「常識」とされていることに「盲点」がある場合もあるのです。例えば、内部統制やリスク管理など、社内ではわからない固有の盲点を、社外の目から見て検証するよう心がけています。

時代の変化に敏感な双日の経営

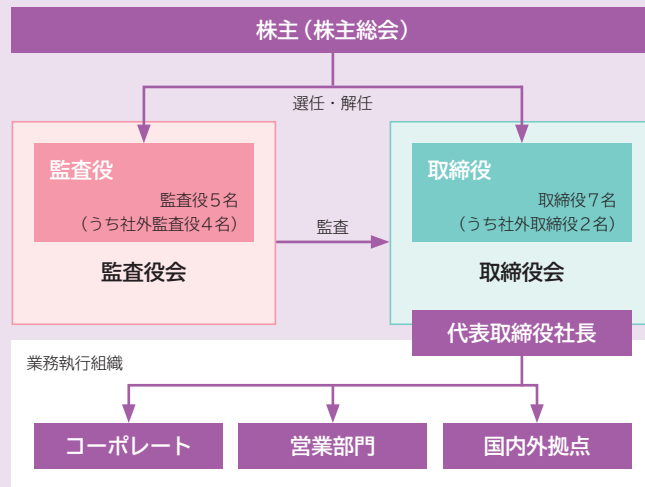
社外監査役に就任して1年が経過しましたが、大企業としての堅苦しい縦社会の雰囲気はなく、風通しの良さが、双日の社風の特徴だと感じています。また、IFRS（国際会計基準）への移行や複数の社外取締役の早期導入、多様性に富むバックグラウンドを持つ社外監査役を置くことなど、双日は時代の変化や社会の要請に常にアンテナを張り巡らし、先駆けて流れを読み取る経営をしています。いうまでもなく取締役会も、双日に対する理解の深い社外取締役が的確な質問をするなど、活発な議論がなされ、公明、公正で、透明性のある運営がなされています。

専門性を活かし、企業価値の向上に貢献していきたい

グローバル化が進むなかで、総合商社の可能性は大きく広がっています。例えば新興国の国家戦略の第一歩に、民間企業の双日が貢献することは非常に重要な役割であり、ひいてはそれが世界全体の経済状況の底上げにつながるものと期待しています。双日は、財政状態の健全化も完了し、資産の入れ替えも進み、これくらいよいよ羽ばたいていこうというところまで来ています。私は、これからも専門である経済学の視点から見た意見を申し上げ、双日の企業価値の向上や、収益力の向上に貢献していきたいと考えています。



取締役・監査役の位置づけ（概略図）



PROFILE

取締役（非常勤）

いしくら ようこ
石倉 洋子

1985年 マッキンゼー・アンド・カンパニー・インク 日本支社マネージャー
1992年 青山学院大学国際政治経済学部教授
1996年 エイボン・プロダクツ株式会社取締役（非常勤）
2000年 一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授
2001年 中央教育審議会委員
2004年 ボーダフォンホールディングス株式会社取締役（非常勤）
2005年 日本郵政公社社外理事（非常勤）
日本学術会議副会長

2006年 株式会社商船三井社外取締役
2008年 総合科学技術会議議員（非常勤）
2010年 日清食品ホールディングス株式会社社外取締役（現）
富士通株式会社社外取締役
2011年 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授
一橋大学名誉教授（現）
2012年 ライフネット生命保険株式会社社外取締役（現）
2014年 当社取締役（非常勤）（現）

PROFILE

監査役（非常勤）

せこ みき
瀬古 美喜

1978年 日本大学経済学部助手
1981年 同大学経済学部専任講師
1985年 同大学経済学部助教授
1990年 同大学経済学部教授
1998年 慶應義塾大学経済学部教授
2013年 同大学名誉教授（現）
武蔵野大学政治経済学部教授
当社監査役（非常勤）（現）
2014年 武蔵野大学経済学部教授（現）

Mikiko Seki

